

令和 7 年度

春入試

茨城大学大学院人文社会科学研究科

入学試験問題

人文科学専攻

令和七年度

茨城大学大学院人文社会科学研究所

春入試

入学試験問題（専門科目）

試験科目

専攻（人文科学）

コース（文芸・思想）

専門領域（国語学）

試験区分（一般・留学生）

問題冊子ページ数 2ページ（表紙を除く）

解答用紙枚数 2枚（問題冊子には綴じこまれていません）

令和7年度茨城大学大学院人文社会科学研究所

人文科学専攻 入学試験問題（専門科目）

専門領域名（ 国語学 ）

問題一

国語史研究における洋学資料の価値とその利用法について論じよ。（30点）

問題二

次の各語について説明せよ。（各10点。丸番号を付してから論じること。解答順は問わない。）

- ① 上代特殊仮名遣
- ② ハ行転呼音
- ③ 『金光明最勝王経音義』
- ④ 才段長音

令和7年度茨城大学大学院人文社会科学部研究科

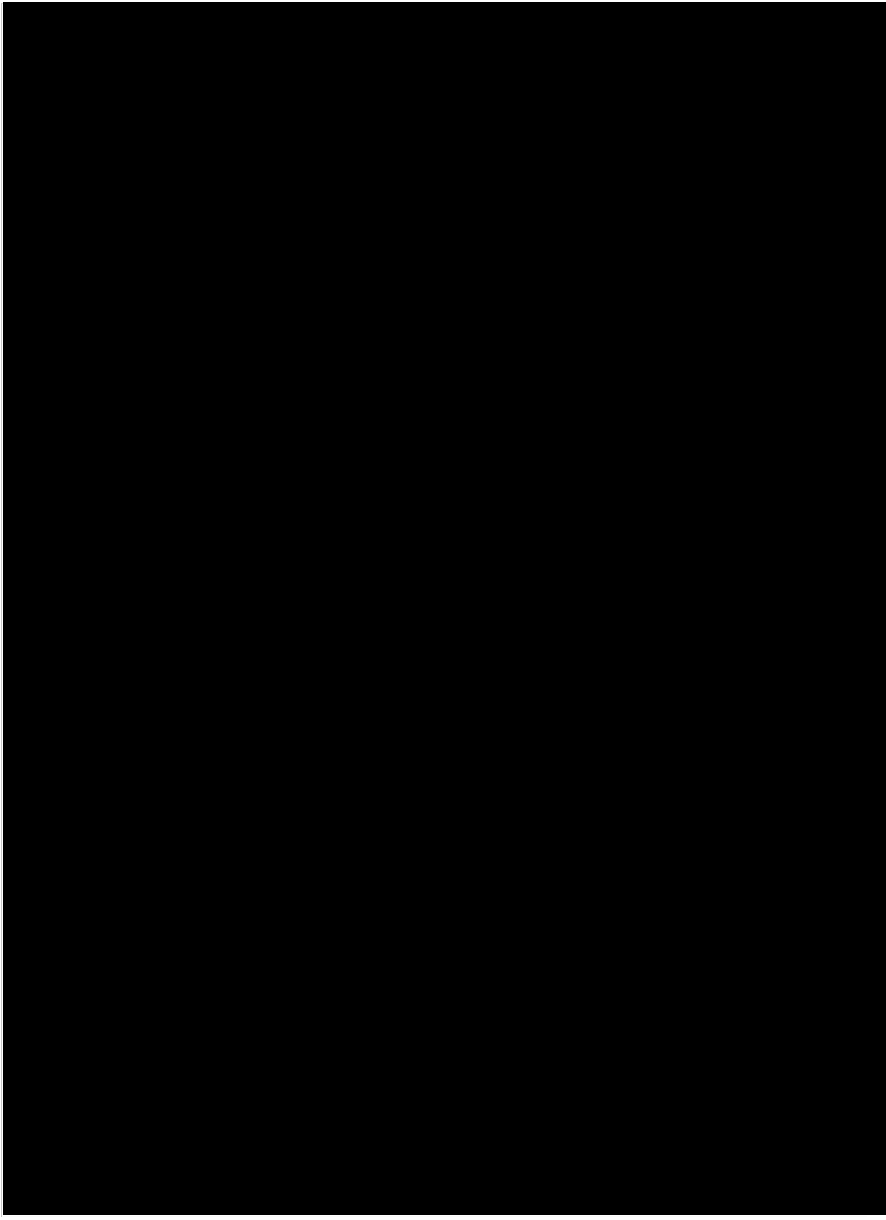
人文科学専攻 入学試験問題（専門科目）

専門領域名（ 国語学 ）

問題三

次のくずし字の文を翻字せよ。その際、漢字は楷書に直し、仮名は現代通行の字体に直すこと。振り仮名もすべて翻字し、改行は原文の改行位置と同じにすること。（30点）

9 8 7 6 5 4 3 2 1



- ①問 ②常食 ③答 ④朝夕 ⑤至 ⑥事

（大槻玄沢『蘭説弁惑』寛政十一年刊より）

令和7年度茨城大学大学院人文社会科学研究所（修士課程）

【春入試】（専門科目） 解答例

専攻（人文科学）

専門領域（国語学）

試験区分（一般）

問題一

以下の観点により採点した。

- ・ 出題意図に沿った解答がなされているか。
- ・ 解答に必要な専門用語が適切に用いられているか。

問題二

（模範解答例）

① 上代文献の万葉仮名において、キ・ヒ・ミ・ケ・ヘ・メ・コ・ソ・ト・ノ・モ・ヨ・ロとその濁音について甲乙二種の書き分けが見られる現象をさす。（ただしモは『古事記』のみ。）本居宣長が『古事記伝』総論の中でこの書き分けについて言及し、弟子の石塚龍麿が『仮字遣奥山路』で実証した。近代になってから橋本進吉がこのことを再発見し、上代では右記の音節において甲乙二種の発音があったことが示された。

② 十一世紀頃から語中語尾のハ行音がワ行音の音で発音されるようになった現象をさす。例えば「いふ」はイウ、「カホ」はカヲと発音されるようになった。この現象により、平安時代中期頃まで発音に基づいて語によって明確に書き分けられていた語中語尾のハ行音とワ行音が、それ以降は混同して表記されるようになった。

③ 著者不明、西暦一〇七九年抄了の音義。音義とは漢籍や仏典に出現する漢字や漢語に対して漢字音と字義や語義を注した書物であるが、『金光明最勝王経音義』には義注の和語にも声点が付されているため、平安時代末期の日本語のアクセントを知ることができる。その他、日本最古のいろは歌を収録している文献としても知られている。

④ 歴史的仮名遣いで「やう（様）」「あふさか（逢坂）」と記すような語は、クリスタン資料において「ø」という長音記号が用いられており（開音と見られる）、「ô」（合音）とは異なる長音記号となっている。それゆえ中世末期ではまだ完全には才段化していなかった様子が知られるが、近世以降は現代と同様の才段長音になったと見られる。

問題三

1 ぱん

2 問ていはくおらんだ人常食にぱんといふものを食するよし何をもて作れるものにや

3 答ていはくこれは小麦の粉にあまざけ醴しよくりやうを入れねり合せて

4 蒸焼むしやきにしたるもの也朝夕の食料しよくりやうこれなり

5 問て曰 飯はん (左ルビ・めシ)は絶て用ひざるや飯たえも食すれどもこ

6 れは至てわづかばかりなり此方の一わん碗にいたらぬ

7 ほどなり多くは天竺てんぢくまい米を用るよし飯の事を

8 「げこふくとれいす」といふ煮にたる米といふ事なり

令和 7 年度

茨城大学大学院人文社会科学研究科

春入試

入学試験問題（小論文）

試験科目

専攻 （人文科学）

コース （心理・人間科学）

専門領域（行動機構論）

試験区分 （リカレント専門教育）

問題冊子ページ数 1 ページ（表紙を除く）

解答用紙枚数 2 枚（問題冊子には綴じこまれていません）

令和7年度茨城大学大学院人文社会科学研究科

人文科学専攻 入学試験問題（小論文）

専門領域名（行動機構論）

あなたが修士課程で研究する予定のテーマを取り上げて、近年の研究動向ならびに今後に残された研究課題について論じなさい。

令和 7 年度

茨城大学大学院人文社会科学研究科（修士課程）

【春入試】 （小論文） 解答例

専 攻：（人文科学）

専門領域：（行動機構論）

試験区分：（リカレント）

- | | |
|---|--|
| 問 | <ul style="list-style-type: none">・ 出題意図に沿った解答がなされているか。・ 解答に必要な専門用語が適切に用いられているか・ 研究テーマの先行研究が体系的に把握されているか。・ 独自性のある研究課題が設定できているか。 |
|---|--|

令和 7 年 度

茨城大学大学院人文社会科学研究科

春入試

入学試験問題（専門科目）

試験科目

専攻 （ 人文科学 ）

コース （ 心理・人間科学 ）

専門領域 （ 行動機構論 ）

試験区分 （留学生）

問題冊子ページ数 1 ページ（表紙を除く）

解答用紙枚数 3 枚（問題冊子には綴じこまれていません）

令和7年度茨城大学大学院人文社会科学研究科

人文科学専攻 入学試験問題（専門科目）

専門領域名（ 行動機構論 ）

以下に挙げる 4 問の中から、3 問を選択して解答しなさい。指導を希望する専門領域の問題は必ず選択し、他の分野から 2 問選択しなさい。1 問につき、1 枚の用紙を使用して解答すること。

【行動機構論】感情の認知的評価理論に基づき、人の感情反応に影響を与える認知的評価を複数挙げて、その特徴を説明しなさい。

【認知行動論】われわれが日常行う思考方法には、イメージを用いた思考、言語的な思考などいくつかのスタイルがあるといわれています。それについて、知っていることを自由に論じてください。

【行動文化論】人間理解にあたり、ライフサイクルと時代史を交差させて考察することの意義について、具体例を示しながら説明しなさい。

【生涯発達論】赤ちゃんは生後 9 か月ごろから「共同注意」ができるようになります。共同注意が成立している具体的場면을例示したうえで、共同注意の概略を説明しなさい。

令和 7 年度

茨城大学大学院人文社会科学研究科（修士課程）

【春入試】 （専門科目） 解答例

専 攻：（人文科学）

専門領域：（行動機構論）

試験区分：（留学生）

問 【行動機構論】、【認知行動論】、【行動文化論】、【生涯発達論】いずれも以下のとおり。

- ・当該問題で示されている心理現象が適切に説明されているか。
- ・当該問題に関連する先行研究が適切に引用されているか。
- ・出題意図に沿った解答がなされているか。
- ・解答に必要な専門用語が適切に用いられているか。